

インターバンクの声（2015 年 12 月 2 日）

15日－16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げが確実視されていると言ってもやはりポジションを抱えている人たちにとっては、日々の指標発表や要人発言などには引き続き神経質にならざるを得ないようだ。昨晚、ニューヨーク市場の午前中に発表された11月の米供給管理協会（ISM）による製造業景気指数が、2009年6月以来の低水準となる48.6と、景気の拡大と縮小の境目となる50を割り込んで、一部にドルを手放す動きが見られた。さすがに指標発表直後の対主要通貨でのドル下落は30ポイント前後に留まったが、昨日に関しては結局ニューヨーク市場の終盤までドルが反発しにくい一日になってしまった。項目別の数字を見ると、生産指数や新規受注が下落、輸出指数や在庫も低水準となったが、週末の雇用統計結果へのヒントになる雇用指数は上昇している。同時刻に発表された10月の建設支出が予想を上回る数字だったことが、どれだけISM景気指数に対するドル売りのインパクトを和らげたのか判らないが、昨日の市場の反応で、まだそう簡単にはドルが見慣れた水準から抜け出すのが難しいことが確認できた。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。